

⑧ 教育

雇用創造目標 約200人
(埋蔵文化財発掘調査分 約2,000人)

【現状・課題】

- ①学ぶ意欲の低下や学力の二極化傾向、不登校の増加等、県内の小、中、高等学校が抱える課題は山積
※ 高等学校卒業生の大学等進学率(H23) 全国54.4% 本県43.9% 中学生の不登校率(H22) 全国2.74% 本県3.14%
- ②地域の産業、経済、社会を支える人財を育成するため、高等学校等では地域の期待を受けとめ、地域のニーズを的確に把握し、応えることが必要
- ③地域経済の低迷により、有効求人倍率が低下する中、特別支援学校卒業生等の就職先の確保が困難な状況
※ H22:就職率28.3%
- ④山陰道の建設に係る埋蔵文化財の発掘調査について、着実な推進が必要

【現場の意見】

- ①児童生徒の状況に応じた学習指導や不登校などの課題に即した個別指導を充実させるため、少人数学級によるきめ細やかな指導が必要
- ②同じ高等学校の中においても、生徒間の学力差が広がっている
- ③教職員の業務が増加する中で生徒の指導時間が十分確保できない
- ④障がいのある生徒の就労に対する企業等の理解を図るため、関係部局による連携・協力が必要

【雇用創造への展開方向】

- ①市町村の選択・協力により、少人数学級対象学年の拡充
- ②高等学校が抱える教育上の課題の解決に向けて、教育機能の充実
- ③教育界と産業界とのネットワークを一層強化し、地域の人的ニーズに対応した県立高校の学科の在り方検討
- ④特別支援学校卒業生等の民間企業への就労支援
- ⑤発掘作業、出土品整理作業人員の雇用

【目標】

- 少人数学級の拡充など学力向上プログラム等の推進
 - 高等特別支援学校開設等による障がい者就労支援の推進
 - 教育機関での障がい者雇用促進
⇒ 4年間で約200人の雇用創造を目指す。
- (○埋蔵文化財保護のための発掘調査人員雇用 ⇒ 4年間で2,000人)

【目指す姿】

- 地域の宝である「人財」を育成

【主な事業】 [※②4:24年度予算額、②3:23年度予算額、単位:百万円]

- ①少人数学級の拡充のための教員配置【新規】[②4 810]
- ②不登校生徒等への相談体制の整備【拡充】[②4定数]
- ③車いす利用の生徒の移動介助等を行う支援員の配置【新規】[②41.8]
- ④県立高等特別支援学校の開設に伴う教職員の配置(H25~)
- ⑤埋蔵文化財の受託発掘調査に係る作業員の雇用 [②41,929 ②31,196]

鳥取県の教育を支える人材の確保

【課題】

- 学ぶ意欲の低下
- 学力の二極化
- 不登校の増加
- 地域のニーズに応じた人材育成
- 特別支援学校卒業生等の就労支援
- 埋蔵文化財発掘調査の推進

対応策

小中学校における少人数学級の充実

対象学年の拡大

県立高等学校の教育機能の充実

不登校生徒等への相談体制の充実
障がいのある生徒の教育環境整備

今後の県立高等学校のあり方を検討

H26～30の新学科設置等を検討

教育分野の
雇用創出

県立高等特別支援学校開設

平成25年4月開設予定

埋蔵文化財発掘調査のための人員確保

鳥取西道路の建設